あなたに向かって
転がっていく
世界
智

桜の花の散る頃に

桜の花の散る頃に
終わった恋

はらはら　はらはら
こぼれ落ちる
花びらと　涙

桜の花の散るように
散りはじめている　恋
散らされている　恋

はらはら　はらはら
流れるように落ちる
花びらと　涙

できることなら

できることなら　今すぐ
汽車にとびのって
あなたのところへ　行きたいのです

できることなら　今すぐ
電話して
ずっとずっと　何時間でも
話し続けたいのです

どんなつまらないことでもいい
あなたのそばにいて
いっしょに泣いて
いっしょに笑って
そんな風に　ずっと

できることなら　今すぐ
走って
あなたのところへ　行きたいのです

できることなら　ずっと
黙って横に　座っていたいのです

君が

君が
君が
君が
君が
君が

君が　あんまり怖い顔をするので

何も言えない

くぎづけ

あなたが私を　見ないなら
私が見つめていよう

ずっと　ずっと　見つめていよう

いつか
何か
気まぐれで
あなたがこっちを　ふりむいたとき
瞳をつかまえるために

見つめていよう

プール

泳がされている

君の　瞳の中を

泳がされている

溺れてしまいそう

告白

はちきれそうなくらいふくらんでる
君のハートは

全て夢ですか？

私の入る場所は　もうありませんか？

大事な一瞬

ぼんやり　ほおづえついて
机の上

君の事を好きだと思える一瞬が

とても　好き

君の存在

君の呼吸を感じていないと
僕の胸はつまってしまいそうだ

ほんの少し
君に会えないだけで
僕はもう　こんなに弱りきっている

写真なんかじゃ物足りなくて
電話をしてみるけど
声だけでも物足りなくて
増々　めいってしまう

君に今　会いたい

君を想うたび　会いたくて
近くにいないことがつらくて
考えるのをやめようとするけれど

やっぱり
想わずにはいられない

君を感じていないと
僕の息は止まってしまいそうだ

君が僕の横で
生きている

それが確認できないと
不安で　泣き出してしまいそうだ

吐息

のみこんだ
愛のささやき

さみしいけれど
胸が苦しいほどに　熱い

心からこぼれおちてくる
吐息

視線

君が微笑んでいるのを
見つめる度に
凍えてしまいそうになる

決して　私には作れない笑顔
今
君に与えたのは誰だろう

瞳を閉じて
眠りこんでいる時でさえ
私には
君のことしか見えないというのに

君が微笑むのを
遠くから　眺める度に
凍えてしまいそうになる

決して　私には向けられない笑顔
今
君が見ているのは誰だろう

限界

冷たい風が
とおりすぎていった

コートを忘れてしまったと
君が走っていった

形だけの指きりなんていらないから
小指のつめの先　ギリギリのところで
君とつながっていたい

君がコートをとりに
走っていった

ほんの数分間
風は冬を思わせた

形だけの微笑なんていらないから
冷たい表情の隅　ギリギリのところで
君をみつめていたい

会話

君の瞳で
とろけてしまいそうだ

熱く
熱く

ほほえみだけ残して

まちびと

君は来ない

何時間　待っても
何日　待っても

君は来ない

君は
ここに来たくないということを
隠そうともしない

そういう君だから

来ないと知っていても
待っている

オブラート

あなたの表情にこびりついている
オブラートを

すべてとかしてしまいたい

もしかしたら
オブラートなんて　ないのかもしれないけれど

見えない笑顔

背中を見せて
君は黙って歩き出す

その背中を追いかける私
すごく幸せ

君の背中に向かって　笑顔投げかける

君が私を見ているときにも
素直に笑えたらいいのに

あなたにむかって転がっていく世界

あなたが　何も言わずに
私から　離れていったのは
なぜですか？

私が　あんまり幼いので
あきれたのですか？

怖くなったのですか？

自信がなくなったのですか？

それとも

私が言いたいことを言うので
怒ったのですか？

傷ついて　泣いているのですか？

いつも　とげとげしい言葉を使うのは
あなたが嫌いだからではなかったのに

そっけない　そぶりも
気のない返事も

全て

あなたにむかって
転がっていく世界に
反抗してみただけだったのです

別れてからしばらくたって

別れてからしばらくたって

あいつのおとしていった
つまらない思い出が

私を泣かせている

小さな
小さな思い出だけが

私を泣かせている

ぬくもり

いやなことは
たくさんあった

悲しい事も
たくさんあった

苦しい事は
数え切れないくらい　多かった

さみしい夜が
とだえなかった

それを
なくさせてしまう
君のぬくもり

れんあい

きみという人に
出会い

君という人を
知り

君という人を
恐れ

君という人から
逃げる

君という人を
なつかしく思い

君という人の
胸に戻りたいと　願ってみる

そんなことの
くりかえし

手紙

あなたのことを
好きになってしまった　ということを

あなたに知られたくて
知られたくなくて

そんな気持ちのまま手紙にしたら
よく分からない手紙が
出来上がってしまって

多分　あなたは
私がわからなくなってしまったのでしょう

私にも分かりません
私がどうしたいのかなんて

抱きしめられると

抱きしめられると
心臓の音が
聞こえます

すごい勢いで脈打つ
あなたの心の音が

抱きしめられると
呼吸のリズムを
感じます

すって
はいて
すって
はいて

だから私も

すって
はいて
すって
はいて

真似してみます

約束

約束を守ってね　って
君は念を押して

絶対に忘れないでよ　って
君は何度も言って

僕は忘れないから大丈夫　って
安心させといて

君はあっさり

いなくなった

あるいていく

右肩に浮かんだ
すきまを
うめるように

あるいていく

空っぽの肩を
なぐさめるように

あるいていく

君の手のひらは
今はもう
ない

最後の電話

沈黙

受話器のむこうで

沈黙

二人　ただ立ちつくしている

沈黙

君がふいに
受話器をおいた

さよならも言わずに

一人　ただ立ちつくしている